



東城八幡神社の拝殿 川西町で



東城八幡神社 (川西町)

東城八幡神社は川西町下永東城地区の鎮守社で、「東城は外敵の侵入を防ぐとりが築かれていたこと」に由来します。



流造銅板葺の本殿は大和川を背にして集落北側に建っています。祭神は誉田別命、足仲彦命、息長帯姫命の三柱ですが、創建年代は不明です。

(住所) 川西町下永385
(祭神) 誉田別命、足仲彦命、息長帯姫命
(交通) 近鉄結崎駅から北側へ徒歩

約10分
境内自由
(拝観) あり
(駐車場) あり
(電話) なし

本殿東隣には神宮寺である白米寺がありました。江戸時代中期には廃寺となりました。仏像類が、江戸時代中期には廃例です。来坐像は八幡神の本地仏定文化財です。本体と

が、江戸時代中期には廃例です。本殿前には石灯籠が30基、並んでいます。大部が幕末ごろのもので、1基には1606(慶長11)年の銘があり、同中期に属する1859(安政6)年の製作で、「作師照信花押」大坂住石工佐吉の銘があるのは他に杵築神社(三宅町伴堂)のこま犬だけです。

佐吉狛犬の深い彫り

(奈良まほろばソムリエの会員 辰巳裕世)